

インマヌエル中目黒キリスト教会

2016年7月31日聖日礼拝

エステル記連講(5)

「王の好意を得た」

エステル記

5章1節～14節

竿代照夫牧師

- 1 さて、三日目にエステルは王妃の衣装を着て、王室の正面にある王宮の内庭に立った。王は王室の入口の正面にある王宮の玉座にすわっていた。
- 2 王が、庭に立っている王妃エステルを見たとき、彼女は王の好意を受けたので、王は手に持っていた金の笏をエステルに差し伸ばした。そこで、エステルは近寄って、その笏の先にさわった。
- 3 王は彼女に言った。「どうしたのだ。王妃エステル。何がほしいのか。王国の半分でも、あなたにやれるのだが。」

- 4 エステルは答えた。「もしも、王さまがよろしければ、きょう、私が王さまのために設ける宴会にハマンとごいっしょにお越してください。」
- 5 すると、王は、「ハマンをせきたてて、エステルの言ったようにしよう」と言った。王とハマンはエステルが設けた宴会に出た。
- 6 その酒宴の席上、王はエステルに尋ねた。「あなたは何を願っているのか。それを授けてやろう。何を望んでいるのか。王国の半分でも、それをかなえてやろう」

7 エステルは答えて言った。「私が願い、望んでいることは、

8 もしも王さまのお許しが得られ、王さまがよろしくて、私の願いをゆるし、私の望みをかなえていただければ、私が設ける宴会に、ハマンとごいっしょに、もう一度お越しくください。そうすれば、あす、私は王さまのおっしゃったとおりにいたします。」

9 ハマンはその日、喜び、上きげんで出て行った。ところが、ハマンは、王の門のところにいるモルデカイが立ち上がろう

ともせず、自分を少しも恐れていないのを見て、モルデカイに対する憤りに満たされた。

10 しかし、ハマンはがまんして家に帰り、人をやって、友人たちと妻ゼレシュを連れて来させた。

11 ハマンは自分の輝かしい富について、また、子どもが大ぜいいることや、王が自分を重んじ、王の首長や家臣たちの上に自分を昇進させてくれたことなどを全部彼らに話した。

12 そして、ハマンは言った。「しかも、王妃エステルは、王妃が設けた宴会に、私のほかはだれも王といっしょに来させなかった。あすもまた、私は王といっしょに王妃に招かれている。

13 しかし、私が、王の門のところにならわっているあのユダヤ人モルデカイを見なければならぬ間は、これらのことはいっさい私のためにならない。」

14 すると、彼の妻ゼレシュとすべての友人たちは、彼に言った。「高さ五十キュビトの柱を立てさせ、あしたの朝、王に話して、モルデカイをそれにかけて、それから、王といっしょに喜んでその宴会においでなさい。」この進言はハマンの気に入ったので、彼はその柱を立てさせた。

説教

エステル記連講（５）

「王の好意を得た」

エステル記

５章 １節～ １４節

竿代照夫牧師

主テキスト

「王が、庭に立っている王妃エステルを見たとき、彼女は王の好意を受けたので、王は手に持っていた金の笏しゃくをエステルに差し伸ばした。そこで、エステルは近寄って、その笏の先にさわった。」（エステル 5 : 2）

けつだん

1.(前回の要約)エステルの決断(4章)

・危機：ユダヤ人全滅計画

こうき

おうひ

・好機：「エステルが王妃になったのは、この時
のため」

けつだん

しけい

・決断：「たとえ死刑になっても、王様に近づこ
う」

いの

だんじき きとうかい

・祈り：全ユダヤ人が三日間の断食祈祷会を

2. 王様に近づくエステル(1～5節)

きとうかい さいしゅうび

・運命の日：祈禱会最終日、エステルは王様に近づく

こうい

しゃく

・王様の好意：アハシュエロス王は金の笏を差し出す(エステルに好意を)

ねが

えんかい

・エステルの願い：「今晚、私の宴会にどうぞ。ハマン様もごいっしょに。」

3. エステルの願い その2 (6 ~ 8 節)

・ エステルの^{えんかい}宴会

・ エステルの^{ねが}願い その2 :

^{みょうばん}「明晩も宴会にどうぞ。ハマン様もごいっしょに。」

わるだく

4. ハマンの悪巧み (9 ~ 14 節)

じぎ

・ハマンの怒り: お辞儀をしないモルデカイにハマンは腹を立てる

じまんばなし

しゅっせ

・ハマンの自慢話: 自分の出世を家族に自慢

しょけい けいかく

・モルデカイ処刑計画: そのために高い木を立てる

おわりに:

むずか

たとい難しくても、
み心と信じた道を
まっすぐ進もう